

年齢区分に関する国内運用ルール（2018/2019 シーズン）

SAJ 競技本部 ルール・公認施設小委員会 2018 年 7 月 1 日

※年齢区分一覧

生年	1997		1998		1999		2000		2001		2002		2003		2004		2005		2006		2007		2008
学年	大4早	大3	大3早	大2	大2早	大1	大1早	高3	高3早	高2	高2早	高1	高1早	中3	中3早	中2	中2早	中1	中1早	小6	小6早	小5	小5早
FIS区分	FIS		U21 (FIS)					U18 (FIS)					U16 (Youth)				U14 (Youth)						
SAJ区分	シニア												K2						K1				
国体区分	成年A組							少年組															

- * SAJ 公認大会における競技用品ルールならびに競技ルールは、K2 は U16、K1 は U14 ルールを適用する。ただし SAJ ユース競技会開催要領を優先する。
- * 中 3 早生まれ、中3、高1早生まれの各競技者は、SAJ-B 級大会ならびに、国体少年組に出場できる。その際は、シニアのマテリアルルールが適用される。
- * 高 1 早生まれの競技者は、JOC ジュニアオリンピックカップ K2、全日本ジュニア選手権（スピード系）に出場できる。ただし全国中学には出場できない。

スキー用具に関する国内運用ルール（2018/2019 シーズン）

SAJ 競技本部 ルール・公認施設小委員会 2018年7月1日

※スキーの長さ及びラディウス一覧

種 目	DH				SG				GS				SL	
	女子		男子		女子		男子		女子		男子		女子	男子
カテゴリー／大会	スキー長 (cm) 及びラディウス (m) *表記はどちらも最小値													
	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	スキー長
COC	210	50	218	50	205	40	210	45	188	30	193	30	155	165 *1
FIS / NC	205	50	213	50	200	40	205	45	183	30	188	30	155	165 *1
SAJ公認大会 (ユース競技会以外)	205	50	213	50	200	40	205	45	183	30	188	30	155	165 *1
SAJ公認大会 (K2 (U16))	-	-	-	-	175	27	175	27	188以下	17	188以下	17	130	130
					183以上 推奨*2	30以上 推奨*2	183以上 推奨*2	30以上 推奨*2						
SAJ公認大会 (K1 (U14))	-	-	-	-	スキー長・ラディウス共に 体格、体力、技能に適應したスキー				130	14	130	14	130	130
					188以下 推奨*2	17以上 推奨*2	188以下 推奨*2	17以上 推奨*2						

*1: U18 の1年目はSLにおいて、-10cmの許容差を認める。 *2: SAJカテゴリーのみ。国際大会ではFISに準ずる。 *3: スキー長はスキー板に記載されている数値で判断する。

※スキー用具適用一覧（抜粋）

種 目	DH		SG		GS		SL	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
1.2.1.2.1 ビンディング下部分の もっとも細い部分の幅	シニア	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	63mm以上
	ユース	-	-	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	-
1.2.1.2.2 ビンディングより前方部分の 最大スキー幅	シニア	95mm以下	95mm以下	95mm以下	95mm以下	103mm以下	103mm以下	-
	ユース	-	-	-	-	-	-	-

スキー高	スキー板+プレート+ビンディング	50mm以下 全種目、全カテゴリー、男女共通
ブーツ高	すべてのハードおよびソフトパーツを含む ヒールの底部からスキーブーツソールまでの間隔	43mm以下 全種目、全カテゴリー、男女共通
ヘルメット	<p>全てのFIS及びSAJ公認大会では、新規格対応表示 (FISステッカー[RH2013]) が明示されているヘルメットの着用を義務とする。 新規格ヘルメットルールはDH、SG、GS競技に適用される。 公式用品ルール6.2.4によりヘルメットにはメーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。 SLでは、ヘルメットの耳部分のソフトパッドの使用を認めるが、EN1077またはASTM2040認証が必須である。(SAJレースにおいては推奨) ナショナルエンブレムの貼付はナショナルチーム及び日本代表チームとして海外で競技に参加する場合は必須とする。</p>	
ワンピース	<p>FISレースのDH、SG、GSで使用される競技スーツはFIS規定の空気透過率基準をクリアしたスーツのみ使用できる。 新規格適合スーツにはプリントの適合ラベル[CS2015]が標記されるが、プロンピング(FIS冠)によるスーツも2018/2019シーズン終了時まで使用することができる。(新スーツへの完全移行が1年先送りとなった。) 新規格スーツが適用されるのは、オリンピック・世界選手権・ワールドカップ・ジュニア世界選手権・コンチネンタルカップであり、FISレベル及びユース大会は適用より除外される。 ※DH用スーツは、プロテクター(パット)を競技スーツと一体化することはできない。</p>	